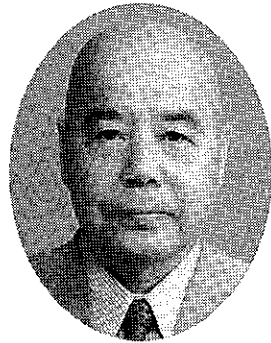


発行所
横浜市神奈川区沢渡4の2
神奈川県保育会
発行人
都 築 融 光
題字
故 内山岩太郎 筆

就任のあいさつ

神奈川県保育会会長

都 築 融 光



生じた時には遠慮なくその知識と経験を活用させて戴くつもりであります。

この度、富田英雄先生が永年の会長職を「勇退」されましたことに伴い、富田先生の会長就任以来副会長として仕えて参りました私が委員会の「ご推薦」により、第五代神奈川県保育会の会長に就任をさせていただきました。もとよりその任には程遠い私ではありませんが、委員の皆様方の暖かい「ご推挙」を有難く受け止め誠意努める事でこの任を果して参りたいと存じます。富田前会長から学び取ったものはこの胸の中に貯えさせていただき、私自身の保育会運営に当り困難を極める様な事態が

今、日本は変革の時代を迎えております。政治も経済も又行政の施策も何もかもが変わらなければならない処へ追い込まれて来た様に思いません。福祉の世界も例外ではありません。その一番の元にあるのが少子化と云うことではないでしょうか。数年前までは「子育て」と云う言葉を中心に置きその手法を一生懸命に研究し研修して来ましたが、そして次には子育てする親の支援もしなければならなくなりました。しかし今はそれだけでは私達の役目が果たせたとはいえないのです。どうしたら若い人達が子どもを産むことに負担を感じないように出来るのか、私達は日々の保

育の中で産れて来る子どもの幸せを保証してあげられる保育の在り方を考えなければなりません。そしてそれは日本の将来を担う子どもの数への挑戦でもあると思います。世界で最も少子化の進んだ国、私達が愛情を込めてこれだけ一生懸命にやって来たはずの子育てなのに、日本が「子どもを生み、育てにくい社会」の現実を直視しなければならぬ事は残念でなりません。次世代育成支援対策推進法の法制化を期に子育て支援の在り方をもう一度考え直し神奈川の保育の充実を神奈川県保育会が先頭に立って進めて行きたいと思えます。その県保育会も新しい委員会構成をさせて頂きました。ベテランの副会長二氏に会の運営に携わっていたいただき、各部の部長には将来の神奈川県保育会を背負ってくれるであろう若手の先生達を事業の推進者として配し、今後の活躍を期待したいと考えております。

本年度当初公立保育所の運営費の一般財源化が実施され、早くも民間保育所の運営費にもその火の粉が飛び、過って一度も実現したことのない保育三団体が目的を一つにして反対運動を展開すると言う最大のピンチを迎えております。子ども達の本当の幸せを守るために私達保育者が利用者である親達と手をつなぎ、この問題に立ち向かわなければならぬと思えます。又、保育所はそれぞれが地域の核となってさまざまな事業を展開しながら地域の中にある資源を引き出し保育所の賑わいを感じられる様な保育所運営が必要になって来ると思われます。それには園長が地域の実状をいち早く掴むことが必要であり、又保育士は国家資格に恥じることがない程の質の向上を計ることが必要であると考えます。私達保育会はそれらを実現させる為の事業展開を委員会として考えて行きたいと思っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

ともに育む子どもの笑顔 第38回神奈川県保育事業大会



保育をめぐる環境は著しく変化している。「待機児童の解消」「子育てと仕事の両立支援」「選択利用にともなう自己評価・第三者評価の導入」「児童虐待の早期発見・早期対応」など社会的役割と期待はますます増大している。

このような多くの課題をふまえ、今大会は、実践に基づいた研究の成果発表・活発な討議等とおし、より高い保育資質の確保を目指し、また、長年に亘って保育につくした功労者を表彰することにより保育事業の一層の発展を図ることを目的とし開催されました。

平成十六年四月二十四日
(土)、第三十八回神奈川県保育事業大会が神奈川県社会福祉会館において、約六百人の参加者が集い盛大に開催されました。

第一部の式典では、保育会副会長の開会のあいさつのおと「花のおきな」の斉唱に続き、保育士会副会長による「児童憲章」の朗読により、保育を担う一員として保育の

重要性や心構えを再認識いたしました。

主催者のあいさつでは、都築会長より「新任のあいさつ」に始まり「今大会の主旨や現在子どもを取り巻く環境について」あり、保育会として現在の子どもたちに「何をすべきか」を考えさせられました。

続いて八十一名の方が永年勤続表彰され、表彰状と記念品を受けられました。また、保育事業の発展のために貢献された功績を称えて、褒章一名、厚生労働大臣表彰十一名、神奈川県保育賞四名の方々に記念品の贈呈があり、会場の参加者より祝福の拍手が沸き上がりました。

ご来賓の神奈川県次世代育成担当部長鳴田謙二氏、神奈川県議会副議長益田はやお氏、神奈川県町長代表守屋大光氏、保育士養成施設校協会会長平野建次氏より心温まる大会への祝辞をいただき、来賓の紹介並びに祝電の披露もされ、保育士会長による閉会のあいさつで式典が終了しました。



平成十六年度
神奈川県保育会総会
式典終了後、会場を移し総会が開催されました。会長挨拶の後に議長選出がされ議題として、第一号議案に平成十五年事業報告及び収支決算書並びに会計監査報告、第二号議案に平成十六年度事業計画及び予算書(案)について審議され全ての議案承認が出されました。また、質疑において座間市保育会より、保育会の入会について神奈川県知事の承認を得たNPO法人等の保育園(所)の加盟問題が質問され、総会を終りました。

昼食をはさみ三会場に別れて研究発表討議がおこなわれました。第一会場ではフリー発表テーマ、第二会場では保育所調理室を活かした食事提供のあり方、第三会場では保育士会によるフリー発表テーマにより真剣な議論が交わされました。

今回第一会場の参加者及び第二会場の参加者より今大会に参加された方からのレポートを掲載いたします。

私達、大和市保育士会研究会は「気になる子どもたち」(気になる子どもと関わるために)というテーマの研究発表を行った。

このテーマに取り組んだきっかけは、保育園で気になる子どもが増えてきている事。その行動としては「友達に乱暴をふるう」「活動の切りかえがうまくいかない」「生活習慣が身につかない」「気が散りやすい」「話がきけない」「すぐカッとなる」等がみられる。その子ども達には、今までのように情に関わって

いくだけでは、うまく対応できなくなってきた。なぜそのような行動をするのか、どのようにしたらうまく関わっていくのか、まずその子ども達の理解が大切と考え、各園の事例を出しながら平成十二年度から三年間研究をすすめた。

気になる子の困っている行動を出し合いどう捉えているか対応の仕方を具体的に考え実践に活かせるようにしたり、器質的な要因(自閉症スペクトラム、高機能自閉症、ADHD・LD)について勉強をすすめ、具体的な特徴、行動に対する対応の仕方や、また気になる子のうちで「キレる」といわれる子ども達をとりあげ各分野の専門家をアドバイザーに迎え、対応方法を学んだ。

気になる子の対応は様々だが、どの子に対しても基本は同じである。それは個々の子どもを理解し、その子に合った対応、援助をすることであり、どんな行動にも、その子



えてみるのが大切である。子どもを深く理解し共感できるように私達は学んでいく必要があると思う。

満員の会場での発表は緊張したが、みなさん熱心に聞いて下さり、発表後に内容が参考になったと声をかけて下さる方もいて私達の勉強したことの必要性をあらためて感じた。

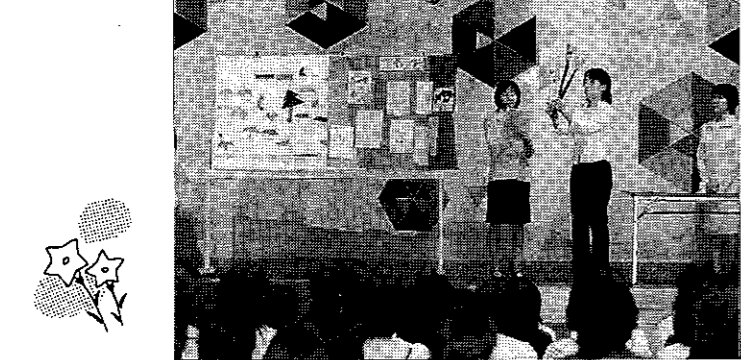
第一会場は、フリー発表テーマだったが、他の発表もいろいろな角度から子どものこ

とをみつめて研究されたもので、発表された方の熱意を感じ、勉強になった。そして、これを機会に大和市保育士会としてもさらに多方面にわたって学んでいこうという意欲につながった。

第二会場では、「読み聞かせ・素話・劇遊び」「子ども達の発達と異年齢保育」「あそびの環境づくり」をテーマに三地区の研究発表がありました。

子ども達がたくさん絵本を知り読んでもらうことで、「心豊かに」成長して欲しいという願いから研究が進められました。絵本を通して繰り返し何度も話をすることで、想像力を向上させ五感を刺激し心身共に豊かに成長すると考えられます。

異年齢児との関わりを経験できるような状況をつくるのは、保育所の課題でもありません。伝承遊びや手遊びなどを通じて、異年齢保育を積み重ねていく中で、年齢別では味わえなかった良さや姿が見えてきました。



最近では、遊び方のわからない子や落ちつきのない子が多くなってきました。保育室のレイアウトを工夫し、コーナー保育を設けたりとよい環境設定によって、クラス全体もまとまってくるのと同時に、ここでの研究発表は、絵本の読み聞かせや手遊び等も紹介され、わかりやすく保育に活かしていきたいと思えました。



第四十五回関東ブロック

保育研究大会

ともに育む子どもの笑顔

― 変革の時代の保育を考える ―

さわやかちば二十一 夢・愛・未来 主役は子ども

梅雨も明け、この夏の猛暑の始まった 七月八日〜九日の二日間、千葉県千葉市幕張メッセ国際会議場を中心に参加者約千四百名（神奈川県五十九名）が集い開催されました。

オープニングは、柏市文化連盟によるクラシックバレエと日本舞踊の織りなす幻想的な舞踊劇「つきうさぎ」が披露されました。

開会式では、軽妙な司会進行のもと、大会運営委員長の歓迎のこぼに始まり、花のおさなご斉唱、保育関係物故者への黙祷、児童憲章朗読と続き、主催者あいさつでは、記者時代の体験から保育の今昔や重要性を熱く語られた千

葉県知事堂本暁子氏、千葉県社会福祉協議会会長清水光任氏からあり、感謝状贈呈では、当県保育会に二十有余年間会長・副会長を歴任されご尽力をいただきました富田英雄氏、他二名の保育会会長に「永年

にわたる保育会への貢献」に対し感謝状が贈られました。関東ブロック保育協議会会長松川和照氏の伝達の後、二名の来賓あいさつ、来賓・主催者紹介により開会式が終了しました。

行政説明では、「次世代支援対策に係わる厚生労働省の取組等について」厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐中村 寛氏より行われました。

基調講演では、なかなか講演をしていただけず参加者の誰もが聞きたかった「オリエンタルランド」の代表取締役加賀見俊夫氏による「東京ディズニーリゾートについて」講演をいただきました。加賀見社長が自らの経営理念「夢・感動・やすらぎ」を具現化するためにあらゆる角度から研究し取組んでおり、そのきめ細かな行き届いたサービスがリピーター率九十五%につながっていることを知らされました。このような姿勢や取組の努力は、変革の時代を迎える社会福祉法人の経営管理として、また、次世代へ夢をつなぐ子どもたちへのサービスを提供する保育所として、大変興味深く見習うことの大切さが生まれ、参加者の目を覚まさせていただけただけではないかと考える。

研究発表では、静岡県保育士会給食研究会による「アレルギー児の事例を通して保育園の食事を考える」をテーマに、県東部、中部、西部の地区において研修・研究された、

子供の生活習慣や食生活等についてアンケートや事例をもとに発表された。

引継ぎ、千葉県保育協議会公立施設長部会萩原 勉氏による大会決議宣言の承認後、次回当番市のあいさつおよび保育士の方々による演奏等会場も沸き返り、一日目の盛り沢山のスケジュールを終了した。

二日目は、会場を交際会議場と幕張プリンスホテルに分れて特別分科会を含め九つの会場にて、研究発表と討議が行われた。特別分科会では、千葉県保育協議会民間施設長部会が主催する「保育所後継者養成講座」の修了生を輩出している。人材の活躍の場の設定として「千葉県近未来保育研究会」の設立があり、自主的な課題提起により分析・研究を行っており、その研究発表が行われた。

本件からの発表は、第三分科会に「わが法人の役割と将来像」をテーマに伊勢原市大原保育園園長萩原敬三氏の発表があり、保育所の経営や運

営、職務マニュアルの作成等が質問の中心となり議論が交わされた。また、第八分科会に「職の重要性 保育園における食物アレルギーの対応について」をテーマに茅ヶ崎市少子高齢部こども課管理栄養士山田りさ子氏の発表が行われました。分科会議長として、第四分科会に茅ヶ崎市須賀保育園園長河島末江子氏がつとめられ、二日間の日程がすべて終了致しました。



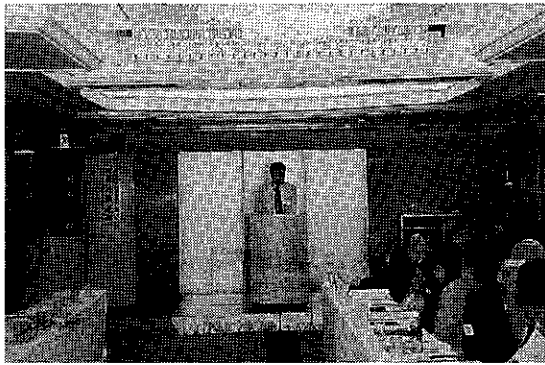
市・町児童福祉課長との連絡協議会

第十四回市・町児童福祉担当課長、県保育会委員との「連絡協議会」が、平成十六年七月二十八日、キャメロット・ジャパンにて開催され、鳴田次世代育成担当部長を始め県より三名、各市町より十二名、保育会より二七名の参加がありました。

冒頭、都築会長より連絡協議会の趣旨が説明され、今年度は次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画（十七年から二一年度分）について、深く共通認識・情報交換を行い、地域における子育ての支援・保育サービスなどの充実を図りたいとお話がありました。

次に、鳴田次世代育成担当部長から挨拶をいただき、出席者の紹介、県保育会事業説明、鳴田部長による講演と続きました。

講演「次世代育成支援対策推進法に基づく地域行動計画」（講師鳴田次世代育成担当



部長）では、神奈川県における次世代育成支援のあり方、神奈川県での現状、基本的考え方について、政策の方向性について資料を基に説明があり、現状の問題点として、若者の失業、ライフラインが描けない、女性の働き方、企業の競争論理、男性をいかに子育てに巻き込むかなどが、あげられました。ちなみに、神奈川県では、秦野市が次世代育成支援モデル都市と国から指定されています。

二〇〇七年より人口減少が始まり、それを良しとするか否か、また公的年金制度においては、出生率一・三を下まわらないという予測の上に作られたが、実際は一・二九と下まわってしまったとお話があり、デンマークでの社会のあり方なども例に、これからの課題にも触れられました。

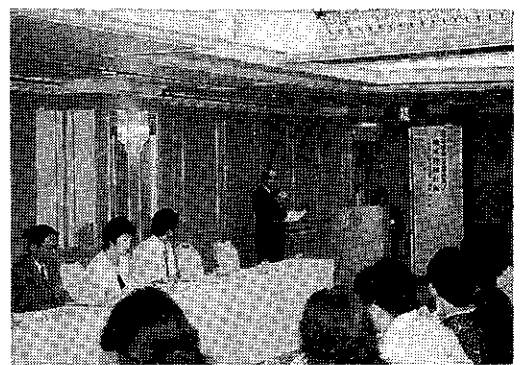
講演の最後に著書の紹介があり、興味深い内容でしたので、ご紹介します。「負け犬の遠吠え」酒井順子著、「ケータイを持つサル」正高信男著。なぜ、結婚しなくなつたのか、子どもを産まなくなつたのか。周囲とのコミュニケーション「ひきこもり」のケースも「ケータイで繋がっていないといられない」ケースも、成熟した大人になることを拒否する点では共通し、「子供中心主義の家庭で育つた結果といえる」など、日本の現状を把握できるような内容です。

その後、休憩をはさみ意見交換会が行われました。各市町の行動計画策定における現状を順に話していただきまし

た。殆どの地区ですでに委員会が発足され、検討会議を行い骨子案ができていますところもありです。全体としては、十二月にはパブリックコメントをいただくという予定で進んでいるということです。

アンケートを行って参考にしていたり、作成委員会のメンバーに警察や生活安全課が参加している市町もあり、今までは縦割りの行政だったのを見直し、総合的に機能して行くような横のつながりを持つていくことが検討されているようです。

各市町のお話の後、県児童福祉課長齋藤氏より、「今回の次世代育成支援対策支援法は、少子化からきているが、子ども一人ひとりが健全に育つていけることが目的です」とお話がありました。具体的には、ベビーカーを押しながらの道のり方かどうか、公園は安全であるか。在宅の整備においては、同じようなも



のばかりになっていないか、(同じような世代ばかりが集まるようにしてしまうと、いずれは高齢化する) など。

その後の意見交換の中では、「子育て支援を進めすぎると子どもの幸せはどうなるか。」都築会長。「母子保健が遅れている。十七歳未満の中絶の増加が不妊につながっていくのではないか。」富田前会長。「熱を出してもお迎えに出ずらいなど、企業側に対してもっと働きかけてほしい。」「保育園の中の子はまだ幸せ、その他の所に問題があるのでは。」など積極的な意見が出されました。

平成十六年度

保育専門講座 I

今年度より、中堅保育士研修会が研修等の見直しにより「保育専門講座I」として、九月十四日に神奈川県社会福祉会館において、参加者百二十七名により開催されました。

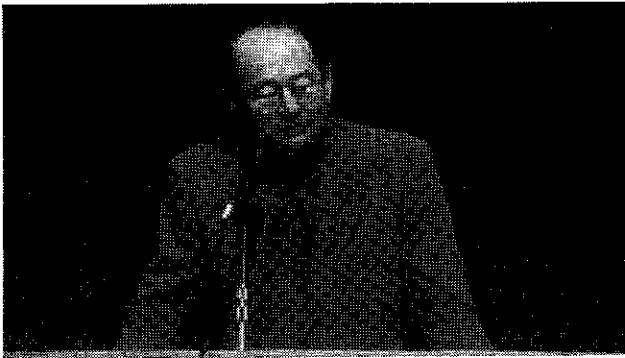
講師に川崎医療福祉大学医療福祉学部教授佐々木正美先生をお招きし、「子育てで大切なこと」をテーマにサブタイトルとして「いま、子どもの世界で何が起きているのか」をご講演いただきました。

研修目的として「今、社会では子どもに関するショッキングな事件が多発しています。保育者や親が子どもと関わる場合、何が大切なのか」を学びました。

その中で育児が嫌いな時代への移り代わり、ままごと遊びが出来なくなった子ども、いじめや不登校の問題人間関係の問題や多様な人に育てられる意味について多彩な角度

から学ぶことが出来改めて子どもの育ちと人に育てられる大切さについて考えさせられました。

講演後、お話しをうかがい、グループ討議で確認し理解を深めるため、グループで「子育てで大切なこと」を聞いて感じたことをグループでまとめました。



「子育てで大切なこと」を聞いて感じたこと まとめ

「育児が嫌い」

- 子育てに無知・育児能力の低下
- 子どもとうまく付き合えない
- 何が何でも園に預けたい、夏休みなしで長時間、犬の散歩優先
- 親・祖父母が自己優先
- 園に預け遊びに行く時、どう対応したらよいか
- 親のニーズには応えるが、子どもの視点がない
- 子どもの欲しがる物を与え親が満足する
- 一日保育士として保育現場を体験してもらった子ども
- ままごと遊びができなくなった子ども
- みんながペットで母親が不在
- 「いい子」を装っていることへの対応・スキンシップ
- 自己主張が強い
- 親から愛されている実感が無い
- 園児の将来に不安
- 多様な人と交わる

○ 信頼関係が基本・良い所を多めに伝える

- 言葉が伝わらない
- 解って欲しい親には解ってもらえない
- 親の気持ちを受け入れることが、親が子どもを受け入れる事
- (子ども)
- みんなと遊んで楽しい
- 一対一の愛情を求める子・親が多い
- 相手を選んでいたずらをする・信頼関係の確認
- 保育士に甘えたい子家庭の問題
- (保護者)
- 親は同じレベルの人と話す
- 親自身が保育士・園に認められたい・愛されたい
- 一対一の愛情を求める子・親が多い
- 子は母に、母は夫に受け入れられることが土台
- 生活レベルを下げてくなく
- 園行事への関心が薄い
- (職員)
- 朝のあいさつ

○ 親の出来る事の中から声をかける

- 資料として伝える
- 直接伝える
- 連絡ノートに細かく書き様子を伝える
- 親の受容が親子の受容
- 問題のある親・難しい親との係わり(個別対応)で余裕がない
- 新年度は子どもの安定に抱きしめ、声掛けが大切
- 若い職員は親の対応の仕方が大変
- 園長・主任等の援助が必要
- アドバイスは負担になる
- 第三者として園長が保護者に働きかけを
- 虐待・ネグレストの疑いと対応の難しさ
- 障害の心配を伝えることが難しい・専門家(医師)等につなぐ
- 丁寧な言葉づかいで子ども
- 言葉づかいを見直す
- 佐々木正美先生プロフィール
- 横浜市総合リハビリテーションセンター 参与
- ノースカロライナ大学医学部 精神科臨床教授

新任保育士研修会

若葉の季節、五月三十一日に神奈川県社会福祉会館を会場にして参加者五十名で開催されました。参加者の感想をお伝えいたします。

しらかば保育園

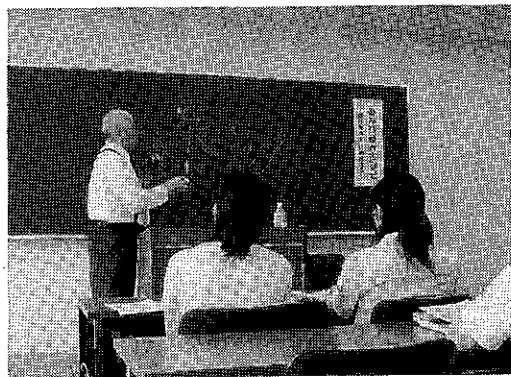
呉 夕佳

今年度も県保育会が主催する新任保育士研修会が行われ、参加させていただきました。

開会あいさつに続き午前前の部では、全国保育協議会研修部 富田英雄部長による「あこがれの保育士になって―新任保育士に期待する―」の講演がありました。

昨今の保育事情について説明されたあと、現社会の保育ニーズを満たすべく保育士の役割はいかに重要なものになってきているか話をされ、保育士としての基本的なスキルを確立し、感受性や人間性を豊かにしなければならぬと強調されました。

子どもたちにとつて保育士は神様であるから先生といい、生きる上でのマナーや生きる基礎を教える立場である為、いつでも自分の行動を自問自答し常に反省する事が大切であると教えていただきました。そして、精神的に辛い時であつても、子供の前では笑顔を絶やさずにいる事が大切であり、近頃の難しい家庭事情の中に追いこまれてしまう子どもたちの気の安まる場所をつくってあげられるのが保育士だと教えていただきました。講演を通してその話しのひとつひとつに自分の保育を照らし合わせながら、改めて保育の大切さ、そして保育士の心構えを考えさせられました。午後は、「あそびうたでコミュニケーション・歌って楽しんで」というテーマで、八王子市浅川保育園園長・子ども文化研究所員 島本一男氏の実技指導がありました。



以前から、あそびうたや手遊び等には特に興味を持っており、「しまちゃん」こと、島本先生の指導をいただけた事をとても楽しみにしていました。次々といろんな曲を覚えていただきながらも、保育の重要性を伝えてくださいました。近年、さまざまな事件、犯罪の多い世の中で人と人との関わりが薄れ、子どもたちのコミュニケーション能力も弱まってしまふという現状を踏まえ、たくさん触れ合い遊びやゲームを教えてください、保育園でも楽しく遊んでいま

今回、一日を通して保育という仕事はとても難しい反面とても素敵な仕事だと思えました。そして、研修会に集まってくられた同じ新任保育士の方々のふれあいの中でとても励まされました。今までの保育の反省を生かして、これからは子ども達との貴重な一日一日を大切に、深い信頼関係を築いていきたいと改めて実感する事が出来ました。

綾瀬市立大上保育園
三浦 あゆみ

保育士は心構えとして、常に笑顔を保つこと、健康な生活を送ることを心がけること、向上心を忘れず感性を磨くことなど具体的に伝えていただきました。その中で、子どもたちがより幸せに暮らすためには、子どもになにかをするのではなく保育者自身が豊かな心でいなければならぬという言葉がとても印象に残りました。午後は、「あそびうたでコミュニケーション」というテーマで、島本一男氏による実技指導がありました。ギター演奏と共に、参加者全員で歌を唄うことからはじまりましたが、実践を通して、コミュニケーションをとる方法を様々な形で学ぶことができました。また、身近な素材で子どもも楽しめる自由な遊びを教えてください、自分自身も楽しんで表現あそびに参加させてくださいました。一日を通して皆さんのことを学び、教えていただきましたが、子どもが安心して生活できる環境作りを心掛ける



ことや、日々の子どもの言葉にしっかりと耳を傾けることなど、保育をするうえで大切なことを見直すことができませんでした。これから子どもたちと過ごしていく中で、毎日に積み重ねを大切にし、その時々の子どもの気持ちを受け止め、代弁してあげられる保育士を目指したいと思えます。また保育事情に問題意識をもって取り組むことや、常に目標意識をもって様々なことに挑戦していきたいと思えます。

事務局の運営にあたって

事務局長 斎藤英弥

保育会事務局に今年の七月から縁がありましてお世話になっていきます。

私は、児童福祉に関しての仕事は、初めてでしたが、保育の仕事の大切さが分かってきました。今後ともコミュニケーションを大事に務めてまいりますのでよろしくお願ひします。

事務局の役目は、調整役として会員保育所同士の横の連携を密接に行うことができるようにすることや、全保協との縦の連携を繋ぐことが出来るように太いパイプにしておくことと思っています。

業務活動としては、役員会の開催、総会・保育事業大会の実施、研修事業の実施、各種施設の視察、各研究委員会活動の実施等々各種事業について国、県、市町の施策の動向の情報収集や情報提供を行うって活発な運営のためお手伝いすることが使命と思っております。

今、事務局で関心をもって見守っているのが、三つあります。一つ目は、県、市で検討している次世代育成支援行動計画の策定について、二つ目は、総合施設のあり方のまじめについて、三つ目は、民間保育所運営費の取扱についてです。

これらは、今後、保育所の運営に少なからず関わりがでてくるのではないかと思っています。そして、地域の身近なことについては、信頼と実績のある保育所が中心になるのではと思えてなりません。

今後、わが国は三年後には人口減少社会を迎えることになりませんが、経済の活力が削がれかねない影響が出てくることを心配しています。また、高齢化の進行により、六十五歳以上の高齢者人口は、総人口の約二十%の割合となり、若い人が少ないことによる歪みの解消が急務と思えます。

最後に、会員保育所の隆盛と発展のため、一生懸命頑張りたいと思えます。

これからの予定

保育専門講座 II
平成16年11月25日(木)
9:50~16:10
県社会福祉会館
保育園を考える親の会
代表 普光院 亜紀 氏
宮原保育園長
ISO審査員 白河 健一 氏

保育の日前夜祭
平成16年12月3日(金)
受付17:00~17:30
横浜エクセルホテル東急
3階「グランドホール」

保育所調理員研修会
平成17年1月28日(金)
10:00~16:30
かながわ県民センター
横浜エクセルホテル東急
県地域保健課
副技幹 迫 和子 氏
白鷗大学発達科学部
教授 高橋 三保 氏

平成17年度神奈川県保育事業大会 平成17年4月23日(土)
神奈川県福祉会館

編集後記

平成十六年四月一日より、広報部員も部長を初めとし、多くのメンバーが入れかわりました。新しい委員一人ひとりの感性を大切に、「保育かながわ」を発行してまいりる所存です。

今年に入り、国の打ち出しによる「三位一体の改革」が本格化し、地方への税源移譲の問題等により保育の世界は「まさに激震の時代」を迎えようとしています。

このような時代こそ「会員一人ひとりの気持ちが一つになることや情報のタンスの整理」が求められるのではないかと考えます。

このことを踏まえ、保育会が情報の中核となり、できるだけ多くの保育情報が提供できまますよう努力してまいります。

会員の皆様も、地域にございますホットな情報や保育に先駆かれています情報等をお寄せいただけますよう宜しくお願い致します。